

注意点1

理論

メジャー・スケールの構成を頭に叩き込もう!

まずは、このメイン・フレーズで使用しているメジャー・スケールについて解説しよう。メジャー・スケールとは、いわゆる“ドレミファソラシド”のことで、7つの音によって構成されている(図1-a)。このメイン・フレーズは、Gメジャー・スケールのため、スケール・ノートは“G音・A音・B音・C音・D音・E音・F#音”になる。指板を幅広く使ったフレーズになっているので、演奏する前にポジション図をしっかりと覚えておくとうまいだろう(図1-b)。ちなみに、Gメジャー・スケールとEナチュラル・マイナー・スケールのスケール・ノートは同じになるのだ。

図1-a メジャー・スケールの仕組み

(例 Cメジャー) ◎トニック=C音

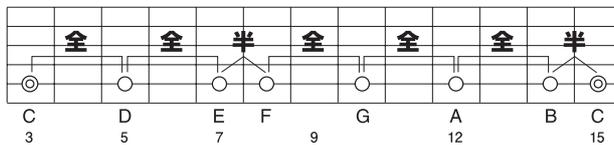
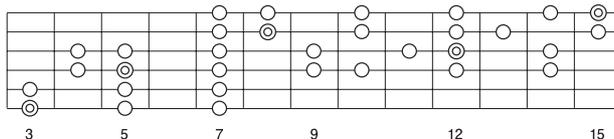


図1-b メイン・フレーズのポジション図(Gメジャー・スケール)

◎トニック=G音

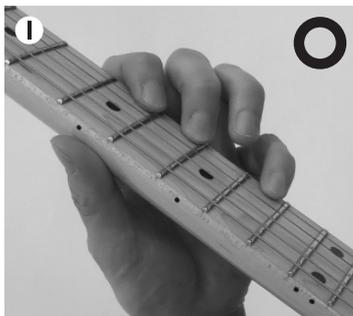


注意点2

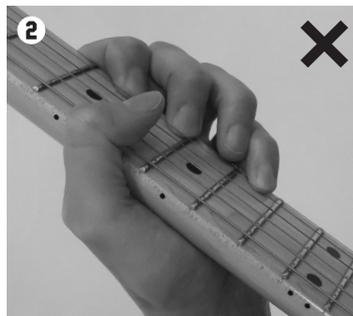
左手

必ず隙間を作るべし! スライド時のネックの握り方

このメイン・フレーズでは、スライドを使ってポジション移動していくことがポイントになる。途中で音が途切れない滑らかな移動【註】を行なうためには、手の平とネックの間に多少の隙間ができるようにネックを握ると良いだろう(写真①)。手の平がネックに密着して、包み込むように握ってしまうと、スライド時に手の平がネックに引っ掛かり、滑らかな移動ができなくなるので気をつけること(写真②)。また、スライド時には、親指をネックの上に少し出すようにすると、ネックに対して平行移動をきちんと行なうことができるだろう。



手の平をネックに付けないようにしよう。また、親指は添える感じでネック上部に置くこと良い。



手の平がネックに密着してしまうほど深く握り込むと、横移動がしづくなるので注意しよう。

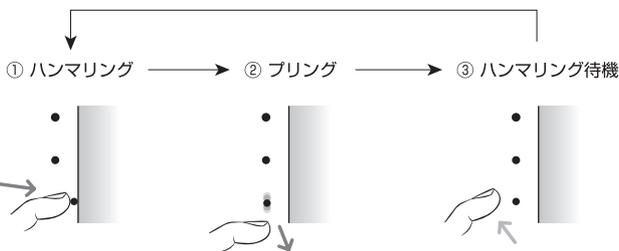
注意点3

左手

プリングの軌道を小さくして音をスムーズに繋げよう!

メイン・フレーズ4小節目では、ハンマリング&プリングをくり返しながら、スライドを使ってポジション移動していく。このような“ハンマリング→プリング→ハンマリング”という動作を行なう時には、プリングを行なう指の軌道を小さくするように心掛けよう(図2)。ここで指の軌道が大きくなると、ハンマリングをスムーズに行なうことができないので気をつけること。また、人差指の使い方も重要なポイントとなる。人差指はハンマリング&プリングの軸指になり、同時にスライドで移動していく指になるため、しっかり押弦しなくてはならない。人差指がフレットを正確に捉えていないと、フレーズが崩れてしまうので注意しよう!

図2 ハンマリング→プリング→ハンマリング



プリング後の左手の軌道を少しでも小さくすることが大切だ。

【途中で音が途切れない滑らかな移動】スライドの途中で押弦が弱まり、音がかすれてしまうのはNG。蛇足だが、手に汗をかくとフィンガリング力が低下する。道路のように水がたまると滑りやすくなるので、まめに汗を拭こう!